



デミウルトラ

歯科臨床へのデミウルトラのインパクト

光重合型レジンを用いたダイレクトボンディングは、日常の臨床において欠くことのできない修復法となっている。その背景には、コンポジットレジン自体の研磨性あるいは機械的性質の向上があることは間違いない。

その一方で、光重合型レジンの重合硬化のトリガーとなる光線を発振する照射器も、いまやコードレスであることが当然となった感がある。

その臨床操作性の向上は、確実にダイレクトボンディングを行う頻度を押し上げるものとなっている。

一方、現在主流のLED照射器にあつては、性能自体が光源に依存することもあり、デザイン性あるいは使用感が重要視される傾向にある。

性能が向上したとはいえ、LED照射器の欠点の一つとされていたのが電池（バッテリー）の種類あるいはその性能であった。携帯電話の機種変更の時期が、バッテリーの消耗時期と一致しているというのと同じで、LED照射器も光源は損耗していないにもかかわらず、買い替えを余儀なくされていたのがこのためであった。電池切れならまだしも、「充電できない」という致命的な欠点を

持つ製品もある。

デミウルトラで採用されているウルトラキャパシタ（電気二重層コンデンサ）という技術は、これまでの充電電池と呼ばれているバッテリーとは異なり、耐電圧が高いうえに充電電による劣化が少ないなどの利点を有しており、ハイブリッドカーなどでトルクを稼ぐために用いられているものである。フルチャージまでわずか40秒間でありながら、光重合型製品の重合硬化反応には十分と考えられている光強度（約1,200 mW/cm²）を達成している。まさに、短時間のうちに口腔内で機能するコンポジットレジン修復を行わなければいけない現在における歯科診療に適した新次元蓄電デバイスである。

デミウルトラは、エネルギー効率が高いことはもちろんであるが、口腔内のあらゆる箇所に通ずることができるデザインを有し、照射時の発熱を抑制することで患者にとっても快適な治療を可能とするものである。その洗練されたデザイン性は機能美ともいうに等しいものであり、新しい技術とともにダイレクトボンディングの楽しみを倍増させるものである。



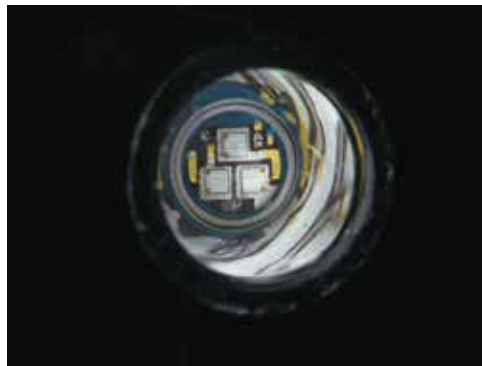
全体に洗練されたデザインになっている。



光量のチェックは、一日の使用前に必ず行う習慣を持ちたい。ビルトインタイプなので、チェックも楽である。



診療時には、感染予防を考慮して専用スリーブを装着して使用する。



照射器チップ先端にLED光源が取り付けられており、これによって効率よく光エネルギーを伝達できる。